

平成24年度新しい公共の場づくりのためのモデル事業

いわて文化支援ネットワーク通信

アシスト・なう

3号

発行日
平成24年10月1日

発行:特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷:杜陵高速印刷株式会社

- 1面「大道芸カレッジ2012」in静岡報告
- 2面IBBYロンドン大会/3.11絵本プロジェクト報告
- 3面「つながる」アートコミュニケーション展in宮古
- 4面10月イベント案内、事務所便り

大道芸カレッジin静岡

開催/2012年9月15日(土)~17日(月・祝)

「市民クラウンカレッジin盛岡2012」(10月6日~8日)開講準備のため、盛岡から3名のスタッフが、「大道芸カレッジ2012」(会場・静岡県島田市野外活動センター)に参加しました。

「大道芸カレッジ」は、11月に静岡市内で開催される「大道芸ワールドカップin静岡」でフェスティバルを盛り上げる市民クラウンを養成するための講座です。1992年、一地方都市から始まったこの「大道芸ワールドカップin静岡」は、今や世界が注目するパフォーマンスアートフェスティバルに成長しました。

10月から始まる「市民クラウンカレッジin盛岡2012」開講準備のため、盛岡スタッフ(佐野・打田内・廣田)3名は、「大道芸カレッジ2012」(会場・静岡県島田市野外活動センター)に参加しました。

「大道芸カレッジ」は、11月に静岡市内で開催される「大道芸ワールドカップin静岡」でフェスティバルを盛り上げる市民クラウンを養成するための講座です。1992年、一地方都市から始まったこのプロジェクトは、今や世界が注目するパフォーマンスアートに成長しました。

一週間足らずで申込み人数が定員を超えるという貴重な枠に、私たち3名は参加させていただきました。入所式では岩



手から来たことを含め、皆さんの前で自己紹介しました。出だしから既に受講者も実行委員会も大盛り上がりで、拍手と共に温かく迎えてもらいました。

初日は、受講者30名のクラウンネームを自分で決め、それから身体をほぐしたり自分自身を解放する発声や体操などをし、夜は資料を読みながらクラウンの歴史を学んだり、DVDを見たあとペアを組んで実際に真似をして動きました。

二日目は、翌日の発表会に向けて動きを覚えたり、創作クラウンギャグの発表をしたり、メイクとコスチュームについて学んだり、朝から晩まで内容が盛りだくさんでした。

最終日の発表会にはたくさんのお客様がいらっしゃいました。ほとんどが市民クラウンの先輩たちで、優しい雰囲気にも包まれながら、全員で発表会を終えることができました。

この三日間、実行委員の皆さん、そして講師の白井先生はお忙しいなか時間を作ってください、毎晩打ち合わせをし



(報告・佐野)

ました。盛岡開講に向けて、静岡が目指すクラウン、そして盛岡で認識されているクラウンのイメージと、求められる「中身」や今後の「実用性」について話をし、準備すべきことなど整理していただきました。盛岡でのカレッジ開講、そして受講者が今後クラウン精神を持つてどのように復興支援活動・仕事・生活に活かしていくのか、今からとても楽しみです。静岡にとってクラウンが重要な役割を果たしていること、その存在がとても大切にされていることなど、現地の空気を吸って学び、体験した三日間でした。



「アートによる心の復興」をテーマに、被災地在住や被災地出身のアーティスト、或いは阪神大震災を経験した神戸のアーティストらが盛岡市中央公民館に会し、8月の2週間公開制作を行いました。

そこで完成した作品は、9月1日～11月6日まで沿岸市町村を中心に県内5カ所を巡回し展示会を開催しています。今回は、9月6日(木)宮古会場に展示作業のため訪れた今回のコーディネーターでもあり、盛岡市中央公民館の長内努さんに同行取材しました。

文部科学省「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」
「つながる」アートコミュニティ展(宮古会場)

搬入トラックは、小雨降る宮古市立図書館に到着。早速会場となる2階展示室に作品を運び込み、6人のスタッフで展示作業に入りました。作者名の書かれた梱包材を一つひとつていねいに外しながら、普段はそれぞれが作品を制作する側の皆さんが、こうして今回の展示会の裏方になって頑張っている姿を垣間見て、頭が下がりました。



受付ボランティアの樋口都子さん

宮古の絵画サークル会員。宮古市内通院している病院内で震災に会い、その日は病院に泊まりました。「震災後はなかなか絵筆を持つ気持ちにはなれませんでした」とおっしゃいます。

作業中にも関わらず、様々な生き物が描きこまれていく鮮やかな作品に子どもたちの歓声があがります。



家族連れから高齢の方まで、会場は作品を見にいらっしやる多くの市民の皆さんで賑っていました。

メッセージがつかめなかった。しかし公開制作で神戸の作家と出会い交流を持てたことは自分にとって大きな刺激」と今回の事業に参加した感想を語って下さいました。今後の予定は▽現在盛岡市中央公民館(10月28日まで)▽11月3日～6日田野畑村アズビイ学習センター



(報告 打田内)

IBBY ロンドン大会にて



8月23日～8月26日の間、ロンドンで開催されたIBBY(国際児童図書評議会)世界大会へ出席し、3.11 絵本プロジェクトいわての活動を、展示とスピーチという形で世界にむけて報告させて頂きました。IBBYとは、1953年にスイスのチューリッヒで設立された国際児童図書評議会(International Board on Books for Young People)の略称です。子どもと、子どもの本に関わるすべての人をつなぐ世界的ネットワークとして、現在本部をスイスのバーゼルに置いて活動しています。この世界大会は2年おきに開催され、世界中から「こどもの本」に関わる人々が集ります。今回は東日本大震災後初めての大会となり、世界中から震災の影響やその後の活動についてたくさんの注目が集まりました。



↑活動報告の展示ブースにて。

25日の早朝に行われた発表には、開会式で参加を呼びかけたこともあり、多くの方が参加してくださいました。発表は12分間というとても短いものでしたが、震災後、プロジェクトがどのように発足し活動を行ってきたか、スライドも交えて、代表の末盛千枝子が報告しました。早朝にも関わらず発表を聞きに駆けつけてくれた参加者は、静かに、じっと耳を傾けてくれました。発表を終えた後、会場からはたくさんの拍手が起こり、中には涙を流している人もいました。

今回の大会へ参加した大きな目的は、私たちの活動を知ってもらおうことでしたが、こちらの予想以上に、震災とこの活動への世界中の注目が高いことにとっても驚きました。そして何より、絵本を通じて活動している人たちが、大勢いるということを知りとても励まされました。世界中には、地震や津波だけではなく、多くの困難と向き合い続けている人々がたくさんいます。そして、その中には必ず子どもたちと、子どもを見つめ活動する大人たちがいます。3.11 絵本プロジェクトいわては、そういった活動を続ける人たちのモデルケースにできると言ってくれる人もいました。



↑早朝、会場にはたくさんの人が集まってくれました。



↑スピーチの後ろではスライドを投影しました。

改めて考えると、「3.11 絵本プロジェクトいわて」はとてもわかりやすい活動です。どのように進めるかを前もって決めたわけではありません。必要となった時に、何がどのように必要なかをひとつひとつ考え、順番に解決してきた結果がこのような形を生み出したのだと思います。被災地の子どもたちに絵本を届けようと決め、絵本を送ってほしいと呼びかけ、日本中から絵本を送っていただき、届いた絵本を集積するための場所を見つけ、ボランティアの方々の力を借りて絵本を仕分け、必要としているところへ連絡を取り、少しずつ届けていきました。「一度に多くのことを成して成果を上げることをしない」というのが、私たちの活動の基本となっているように思います。だからこそ、日本でなくとも、日本人でなくとも、関心を寄せてくれる人が現れ、この活動は他の場所でも通ずると言ってくれるのだと思います。

IBBY ロンドン大会に参加し、絵本を愛する世界中の人々と触れ合うことで、改めてこの活動の意味を知ることができました。この体験を、これからの3.11 絵本プロジェクトいわての活動に繋げていきたいと思っています。

3.11 絵本プロジェクトいわて 末盛春彦

IASC事務所便り

「暑さ寒さも彼岸まで」

昔の方はよく言ったもので、ちょうどお彼岸を境に厳しい残暑は大雨と共に去り、ようやく秋が訪れたような気がします。

さて、そのお彼岸の9月23日は、宮古市私立そけい幼稚園にて劇研麦の会の皆さんと「朗読劇12の贈り物」の合同公演を行いました。大雨にも関わらず、ご来場くださったお客様、そけい幼稚園理事長の晴山冽様に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

劇研麦の会の財産である大道具、衣装が保管された小屋も津波に奪われました。しかし、そのような厳しい状況にも関わらず、麦の会は変わらずに演劇活動を続けています。

宮古市市民文化会館だけではなく、いまだ時間が止まったままの場所が宮古には数多くありますが、人は歩みを進めています。いつの日かまた再びすべての場所の時間が動きだす日を信じて。

変わらない季節はない。雨が降る度に深まっていくであろう秋に思いを馳せつつ。(澤田)



編集後記

編集を始めた頃は、何やら自分の努力で頑張って、いい通信を作らなければという気負いがあったように思う。けれどいわて文化支援ネットワークに参集する皆さんの活動が充実すればするほど、自ずと内容が濃くなっていくと気づき、改めて皆さんに作っていただいていると実感する今日この頃である。(U)

いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3F
NPO法人いわてアートサポートセンター内
☎019-604-9020
E-mail:arts@ictnet.ne.jp
http://lbsn.web.fc2.com/

平成24年度岩手県文化振興基金助成事業
東日本大震災復興支援朗読劇「12の贈り物」

【黄金熊の里】

作 菊池 幸見 構成 坂田 裕一

演出 稲邊 弘康

日時 10月12日(金)開演19時(開場30分前)

会場 いわてアートサポートセンター風のスタジオ

料金 入場無料

当日会場にて募金を募っております。皆様から頂いた募金は「いわて文化支援ネットワーク」又は「いわて芸術文化復興エイド寄附金」等を通じて東日本大震災にかかる文化支援にあてられます。

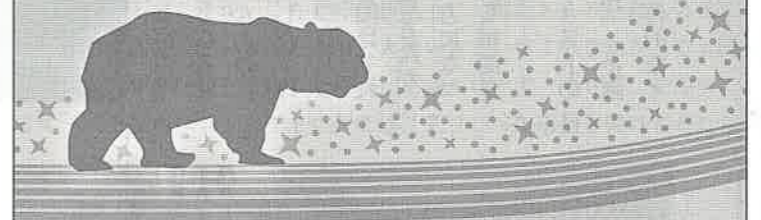
出演 阿部 菜摘、安倍 大貴、小山 伊緒莉、

佐々木 優浩、菅野 逸平、向井 達巳

〈スタッフ〉音 源 佐藤 正昭(スリーエス)

音 響 半田 万里菜

照 明 菊池 瑛子



もりげき八時の芝居小屋第126回公演

釜石・劇団青い海「亡霊―釜石艦砲射撃余録―」

出演 語り芸/川畑 安彦

〈スタッフ〉作/川畑 安彦

受付進行/阿部 しのぶ、佐々木 光男

日時 10月27日(土)開演19時

10月28日(日)開演14時

会場 盛岡劇場タウンホール

料金 前売り 1,000円(当日 1,200円)

問合せ 019-622-2258(盛岡劇場)

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います)

■みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698*

■ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732*

※いずれも口座名:いわて文化支援ネットワーク

■岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2044173

口座名:いわてアートサポートセンター文化支援 代表 瀬川君雄

現在の支援金総額 **7,869,487円** (H24.9.25現在)

ご支援、ご協力ありがとうございます。